

事例検討のポイント



右のQRコードから
左のページの表示を
お願いします。

叶 R6. 11. 6 叶



合同会社サンクスシェア
代表社員 相談支援専門員 田中 聡



支援策を考える視点

相談整理票『5ピクチャーズ』

受講番号:

受講者名:

本人氏名:

ざっくりと
箇条書き程度に

Pic.4 : 生活ニーズアセスメント

●今、どのような困りごとがありますか？

- ・本人の想いに寄り添う
- ・本人の表現を使う
- ・本人の表現を助ける
- ・現状維持というニーズも対象

主語はI

アセスメントの要約
・100字程度でズレの
核心を表現する

Pic.2 : こうありたいと思う状況

●今後どのような生活をしたいですか？

- ・夢や希望は大きいほうがよい
- ・その時の夢や希望でよい
- ・本人にとっての意味を理解する
- ・夢を語れる関係がまず必要

主語はI

Pic.3 : 現在の状況

●今、どのような生活をしていますか？

- ・本人のプロフィール
- ・これまでと今の生活状況
- ・取り巻く環境(家族・住居・経済状況等)
- ・現在受けているサービス等

主語はI

Pic.5 : 近づくための方法

●どうすれば近づけるとおもいますか？

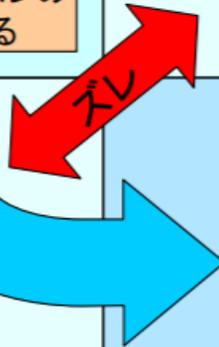
- ・本人、環境のストレングスを活用する
- ・ニーズと資源との適切なマッチングはかた
ちのないものまで含めて柔軟に考える
- ・大きな夢や希望はブレイクダウンしてみる
- ・やれそうな選択肢を挙げてみる

主語はWe

Pic.1 : 着目するストレングス

●どのようなストレングスに着目しますか？

- ・本人のストレングス
- ・環境のストレングス



支援策を考える視点

① 行動問題の発生
を回避する



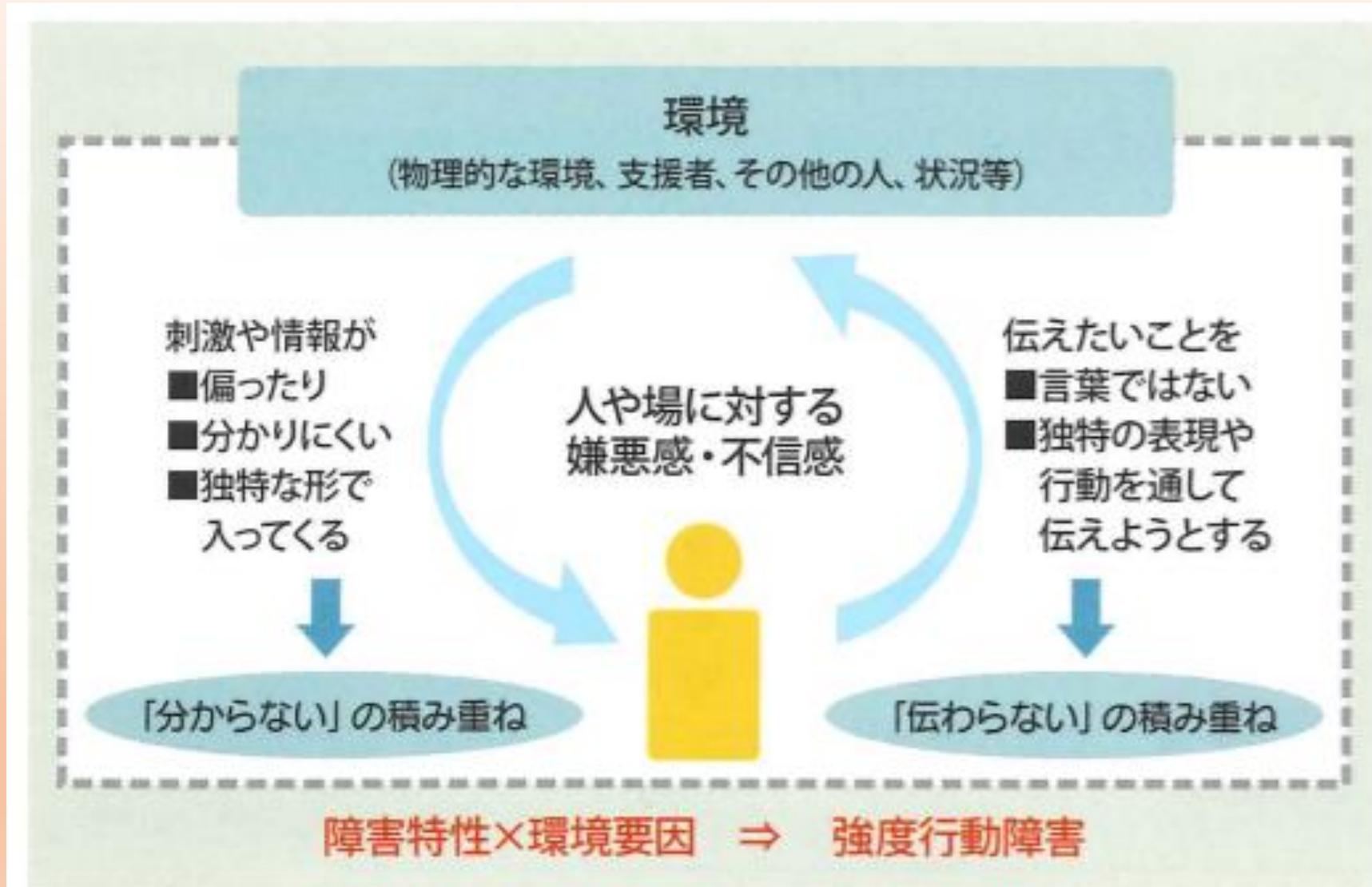
② 行動問題場
面を発生させて
乗り越えさせる

望ましい行動の獲得

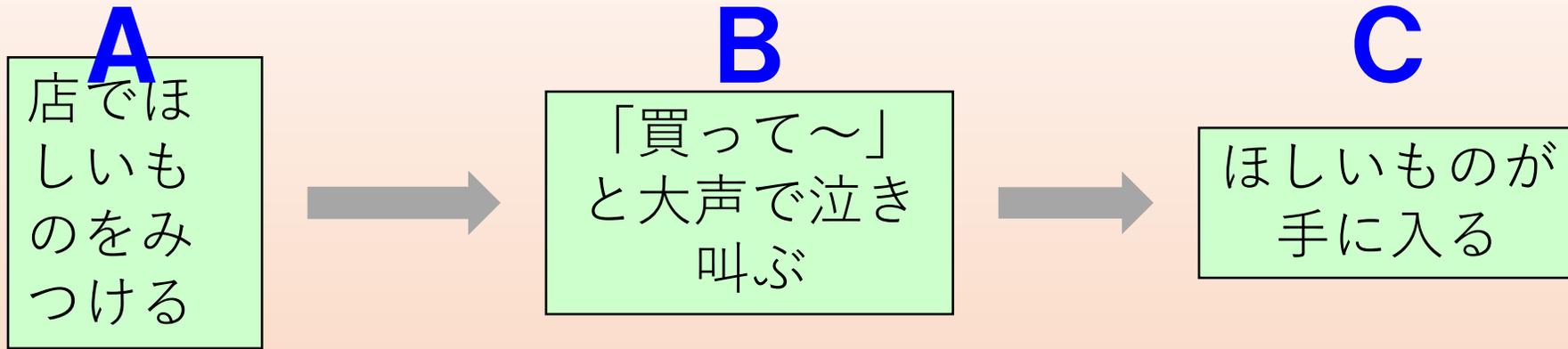
**状況と時期の
適切な見立て**

(例) できている状態が1か月続いたら...

支援策検討の前提



支援策を考える視点



【3つのポイント】

レベルⅠ 『A』の状況をつくらない

レベルⅡ 『C』の結果を与えない

レベルⅢ 『B』の行動を変える

① 代わりに行動をつくる

② 望ましい行動をつくる

支援策を考える視点

【強化子の種類】

- 一次性強化子（無条件）・・・生命維持に関する基本的欲求を充足
食べ物、飲み物、睡眠、性的刺激等
- 二次性強化子（条件性）・・・一次性強化子とひもづいて意味をもつ
言語賞賛、身体的な賞賛（なでられる等）
- 一般性強化子・・・この強化子が別の強化子を得るために使用される
お金、ごほうびシール等
- 社会的強化子・・・人とのかかわりが強化子として機能した場合

【強化子の原理】

- 即時性・・・行動と提示に間隔なく強化子を与えると効果がある
- 随伴性・・・行動に一貫して強化子を与えると行動は強化される

【強化子の原理】

- 連続強化スケジュール・・・行動が起こるたびに強化子を与える
新たな行動を獲得する際
- 間欠強化スケジュール・・・時々、間欠的に強化子を与える
獲得した行動を維持する際

支援策を考える視点

【行動問題の主な機能と理由】

機能	生じる結果	なくなる結果
注目	注目が少ない状況 →行動→周囲の注目	いやな注目 →行動→消去
逃避		嫌なことがある状態 →行動→やらなくてすむ
活動 や物	物や活動が入手できない状況 →行動→入手できる。	いやな物や活動 →行動→消去
感覚 刺激	することがない状況 →行動→感覚刺激	いやな感覚刺激 →行動→消去

ア 好みを利用する

イ 選択機会を取り入れる

ウ 行動問題の生じていない状況を利用する

エ とにかくほめる

オ 先回りをする

カ 環境を整える

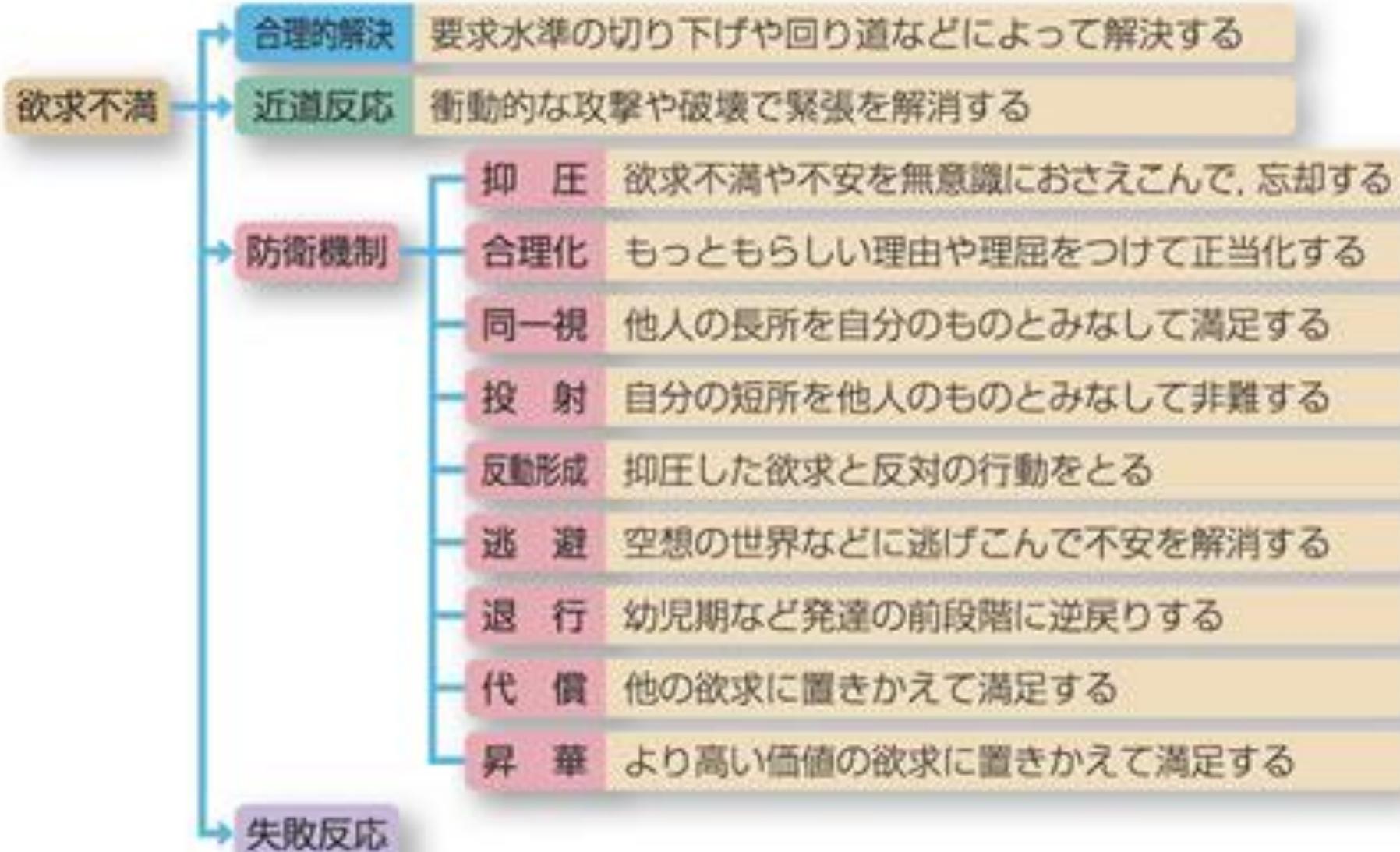
キ スモールステップを組む

ク 高頻度で行われる行動レパートリーを利用する

支援策を考える観点

【人の行動原理編】

主な防衛機制



動機付けとは

モチベーションって

TEMONA

モチベーションと動機づけ

動機づけの種類



社会的動機付け

外発、内発、達成を包含する

外発的動機づけ

処遇、待遇、金銭、義務

内発的動機づけ

好奇心、感情性、挑戦性、認知性

達成的動機付け

より目標達成をしようとする

生理的動機付け

食べたい、寝たい、排泄したい

社会的動機付け

- 遊戯動機**…楽しさや面白さを求める。緊張をやわらげ、冗談やゲームを好む。
- 理解動機**…理論的な考えを求めたり、物事の仕組みを理解しようとする。
- 変化動機**…新しいことを好み、流行に敏感で変革を求める。
- 秩序動機**…安定、秩序、伝統、などを大切にする。整理、整頓、正確さを目指す。
- 達成動機**…努力して高い目標をやり遂げる。才能を生かし自尊心を高める。
- 親和動機**…好きな人の近くにいたい、助け合いたいと思う動機。友情を重視する。
- 屈辱動機**…自分を責め、非難や罰を受け入れたいと思う。敗北を認める。
- 攻撃動機**…言葉や力を使って相手を屈服させたい、反対を克服したいと思う。
- 自律動機**…束縛、強制、横暴な権威、因習を嫌い、自由と独立を求める。
- 支配動機**…人の上に立ちたい、説得や命令によって人に影響を与えたいと思う。
- 服従動機**…優れた人の命令に従い、その人の言う通りにしたいと望む。
- 顕示動機**…目立ちたい、人を驚かせたり、楽しませたりして印象づけたいと思う。
- 援助動機**…弱い者、困っている者などを助け、慰め、励ましたいと思う。
- 依存動機**…甘えたい、助けてもらいたい、愛されたい、同情されたいと思う。
- 異性愛動機**…異性を求め、恋愛関係や性的関係に関心を向ける。
- 屈辱回避動機**…失敗して軽蔑されることを避けたいと思う。自己防衛的な思い。

① 発達的特質の理解

- ・ 身体的発達
- ・ 知的発達
- ・ 社会性の発達
- ・ 自我の発達
- ・ 基本的欲求の発達

さまざまな発達理論

- ・フロイトの心理学的発達理論
- ・ゲゼルの成熟優位説
- ・行動主義の学習理論
- ・ピアジェの発生的認識論
- ・バンデュエラの社会的認知理論
- ・エリクソンの社会的発達理論 などなど

② 個人的特質の理解

- ・ **認知的特質**
(知能・学力・認知及び学習のスタイル)
- ・ **性格的特質**
(性格特性：情緒安定性 社会適応性 活動性
衝動性 内省性 主導性)
(人間関係)
- ・ **態度一意欲の特質**
(興味 関心 欲求
学習意欲：内発性・自律性・達成志向性・価値志向性)

③ アセスメントの視点

- ・ 基本情報（氏名 所属 生年月日など）
- ・ 家族構成（家族の仕事や生活状況 経済状況など）
- ・ ニーズ（本人 家族）
- ・ 関係機関（学校 病院 他の利用事業所 地域の社会資源など）
- ・ 生活歴・障がい歴（障がいの認定 療育相談の経緯など）
- ・ 現在の状況（日常生活 行動の特性や問題 コミュニケーション
健康面 社会生活能力 興味関心・強み 医療情報
他の関係機関の情報など）

Ⅱ インシデント プロセス法による 事例検討とは

1 概要

- 実際に起きたインシデント(小さなできごと)を, 簡潔に提示して, 参加者からの質問を通して, 事例の背景と課題を明らかにし, 対応を考え, グループで話し合う。

2 特徴

詳細な準備は不要

- 事例を出すために、詳細な資料を作らない。
- A4サイズ1枚程度の資料＋日常の記録等

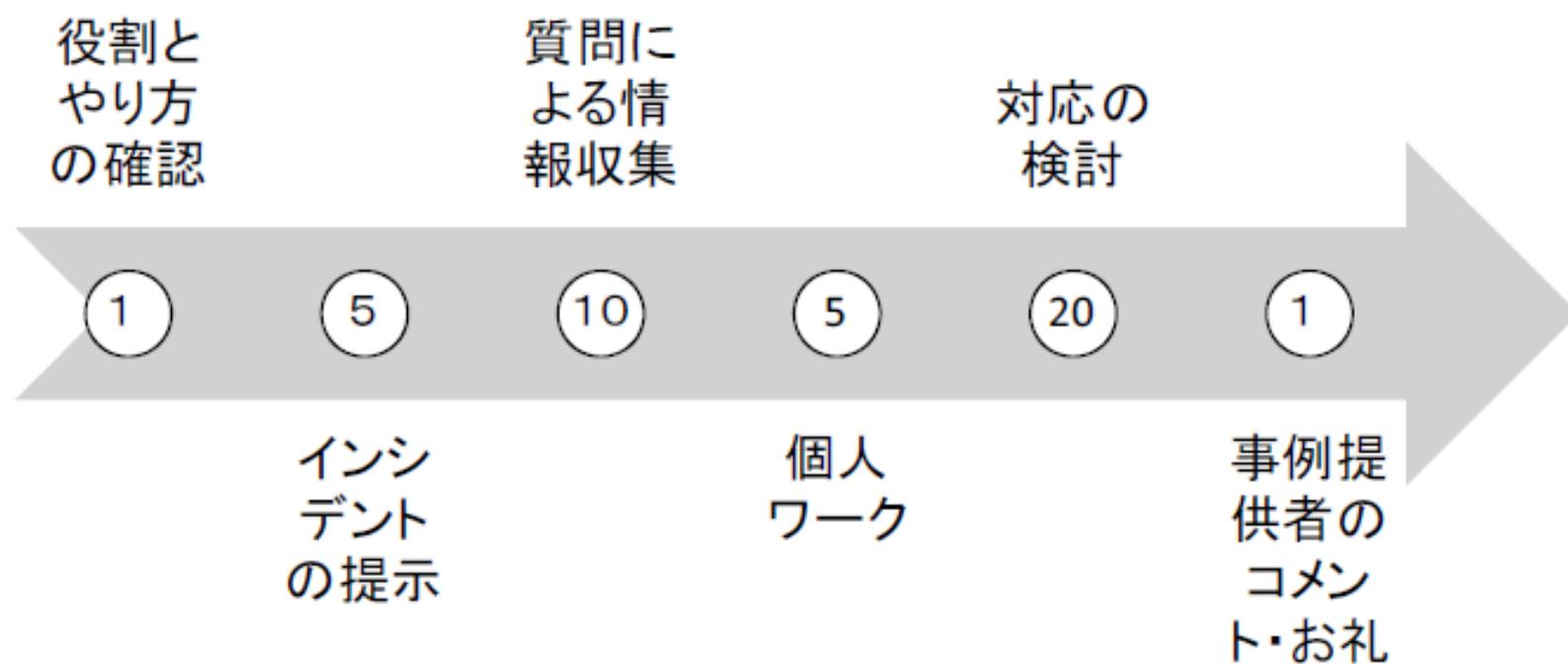
「質問」が重要

- 参加者が積極的に質問をしないと、事例がつかめない。

短時間で一定の成果

- 長い時間をかけないで、事例報告者にとって意味のある結論を出すことができる。

3 進め方(1)時間配分



3 進め方(2)役割

事例提供者

- インシデントを提供する。
- 検討してほしいことを、簡潔に紹介する。

司会者

- 会を進行する。
- 意見が出やすいように、働きかける。

記録者

- 発言と回答を記録する。
- 支援方法案を記録する。
- タイムキーパーを兼ねる。

参加者

- 積極的に質問をして事例のイメージを自分で作る。
- 事例提供者にすぐに役立つ支援策を提案する。

Ⅲ 事例検討の進め方

① 1分 役割とやり方の確認

- 司会は以下の点を、参加者等に確認する
 - ① 役割を紹介する。
 - ② 事例提供者の人が、事例に対してすぐに実行できるような支援方法を考えること。
 - ③ 事例提供者が「事例検討をしてもらってよかった」と思えるよう、力づけるような提案をすること。
 - ④ 事例提供者を責めるような発言ではなく、具体的な方法を述べるように強調する。

② 5分 インシデントの提示

事例提供者

- 事例について簡単に説明する。
- 参加者に何を検討してほしいのかを伝える。

参加者

- 各自、自分でその事例をイメージする。

③ 10分 質問による情報収集

司会者

- ・ インシデントの解決に必要なことの質問を促す。
- ・ 1問1答形式で、具体的な質問をするように促す。

参加者

- ・ 簡潔で具体的な質問をする。
- ・ 今後の対応については質問しない。
- ・ 事例提供者の推測や感想・意見は質問しない。
- ・ 質問を独占したり、割り込んだりしない。
- ・ 関連した質問はよいが、重複した質問はしない。

Point
質問しないと、事例の全体像はわからないので、参加者は積極的に、どんどん質問すること。

事例提供者

- ・ 憶測や今後の対応、自分の意見については言わない。
- ・ 質問されたことだけ簡潔に回答し、余計なことは言わない。
- ・ わからないことは「分かりません」と答える。

④ 5分 個人ワーク

参加者

- 支援方法・対応策を個人で考える。
- 簡潔に、具体的な方法を提案する。
- 支援方法・対応策を、事例提供者の立場にたって、考えて、箇条書きで書き出す。
- 付箋1枚に1つの支援策を書く。

⑤ 20分 対応の検討

司会者

- 個人ワークの支援策を、全体で共有する。
- 出た意見は模造紙に張り付け、似たような意見がないかを参加者に問いかけて、似た付箋どうしを近くにはる。
- 支援策をグルーピングして、簡単なタイトルを全員で考える。
- 残り時間2分くらいで、全員で支援の優先順位を考える。

記録者

- 新しい意見が出たら付箋に記載して、張り付ける。
- A4用紙1枚に、模造紙全体を要約する(午後配布)

参加者

- 書いた支援策を順に発表する。
- 自分の考えた支援策と似た支援策が発表されたら、自分も同様の支援策を考えたことを伝えて、付箋を近くに張る。

⑥ 1分 事例提供者のコメント・お礼

司会者

- 事例提供者にコメントを求める。

事例提供者

- 事例検討の感想を述べる。
- 取り組んでみたい支援策を述べる。
- 参加者にお礼を述べる。